

### 静岡市のココが聞きたい

# 総括質問



平成28年6月29日、30日、7月1日の3日間、25人の議員が総括質問を行いました。質問の一部を抜粋してお知らせします。

### 静岡型行政評価制度における外部評価

**質問** 静岡型行政評価制度において、2次評価を実施する外部評価の対象施策は、どのような観点で選定されたのか。また、どのような視点で評価するのか。

**答弁** 静岡型行政評価制度は、市内部による1次評価に加え、研究者や公募市民等で構成される政策・施策外部評価委員会が施策の2次評価を行う。

2次評価対象施策は、「市が推進する重要な事業を含む施策」「行政マネジメントの視点から成果が思わしくないもの」などの観点から外部評価委員会が選定した。

評価は、施策の達成状況や主要事業の効率性等のほか、今後の方向性についても意見をいただくなど、多角的な視点から行われ、8月下旬には報告される予定である。

### 静岡駅南口駅前広場の再整備

**質問** 静岡駅南口ロータリーは、公共バス、タクシー、乗用車が同じ場所を共有し、スペースの狭さ、混雑状況等が課題となっている。再整備に向けて、今後どう取り組んでいくか。

**答弁** 南口駅前広場の再整備については、交通結節機能の強化や都市の広場機能の充実に向け、駅前広場の拡張の可能性を検討するために、隣接する関係地権者への意向確認を行っている。

駿河区の玄関口としてふさわしい駅前広場となるよう、今後も引き続き、関係地権者に理解を深めてもらうための説明や、関係機関と協議・調整を行いながら、検討を進めていく。

### 集約連携型都市構造

**質問** 静岡市都市計画マスタープランで目指す集約連携型都市構造における「利便性の高い市街地ゾーン」「ゆとりある市街地ゾーン」とはどのようなエリアか。

**答弁** 市民の皆さんの多様なライフスタイルに対応する「都市の姿」を作るため、市街化区域内を次の二つに区分した。

まず「利便性の高い市街地ゾーン」とは、賑わいのある拠点や鉄道やバス路線の沿線などで、日常生活に必要な施設の多くが身近にあり、便利に暮らせるエリアである。

次に「ゆとりある市街地ゾーン」とは、「利便性の高い市街地ゾーン」を取り囲み、公園など生活に必要な公共施設を維持し、地域の良好な環境を守りながらゆとりある生活を楽しめるエリアである。

#### 語句説明

#### 集約連携型都市構造

都市や地域の中心となる鉄道駅周辺や、バスの利用がしやすい地区に、市民生活に必要な都市機能を集約し、これらの拠点間を公共交通で結ぶ都市構造。

### 市街地再開発事業

**質問** 静岡都心地区の再開発事業の現在の実施状況はどうか。

**答弁** 現在、静岡伊勢丹東側で「静岡呉服町第二地区第一種市街地再開発事業」を、上下水道庁舎南側で「静岡七間町地区優良建築物等整備事業」を進めている。

前者は、商業や業務施設のほか高齢者福祉施設等から構成され、本年末には建築工事に着手し、30年度の竣工を目指している。

後者は、商業や業務施設のほか保育所等から構成され、既に建築工事に着手しており、29年度の竣工を目指している。

これらにより、土地の共同化と高度利用が図られ、安全で快適な都市環境、賑わい空間や質の高い居住環境が創出される。

### 防犯灯LED化事業

**質問** 多くの設置要望がある防犯灯のLED化について、現在の進捗状況を踏まえ、今後どのように取り組むか。

**答弁** 防犯灯のLED化については、24年度から28年度の5年間で、自治会・町内会が所有する防犯灯約42,000灯の半数をLED化する計画である。市内全域では計画どおり達成する見込みだが、進捗率の内訳は葵区59%、駿河区57%、清水区38%である。清水区は、事業開始時、防犯灯設置数が最も多かったため、他2区と比べ低くなっている。

現在、自治会・町内会あてに今後3年間におけるLED化の意向を調査しており、この結果とこれまでの進捗率をもとに、29年度以降の事業計画を作成し、LED化を積極的に進めていく。

#### 語句説明

#### LED(発光ダイオード)灯

従来の白熱球と比べ、消費電力が少ないことから、電気料が安く、耐用年数も長い。

### 「ごみ屋敷」対策

**質問** 「ごみ屋敷」の問題は、全国的な課題となっており、実効ある具体的な対策が期待されているが、今後解決すべき課題は何か。また、課題解決に向けた対応をどう考えるか。

**答弁** 「ごみ屋敷」問題の中でも、福祉施策として支援を行う母子世帯や高齢者世帯の場合には改善に至る事例が多く見られる。それ以外の案件では、現在、改善が困難であり、福祉施策以外での取組が課題となっている。

「ごみ屋敷」問題を解決するためには、このような改善が困難な案件についても事例を積み上げ、区役所、福祉部門、市民生活部門、環境部門等の連携により、「ごみ対策」と「人への支援」の両面で取り組むことができる体制づくりが重要と考えている。

### オクシズ材(市産材)の活用

**質問** 東京オリンピック・パラリンピックにおいて、競技会場等の整備で国産材を極力使用する方針が示された。これを機にオクシズ材の消費拡大や、消費拡大につながる森林認証をどう進めるのか。

**答弁** 森林認証の取得が競技会場整備等に使用する木材の調達基準として示された。

このため本市では、新たに認証取得を目指す団体の育成など認証取得の流れをけん引していく。併せて、木材生産の基盤となる林道開設等による木材の搬出経費低減を図るなどオクシズ材の市場競争力を高めていく。

今後も木材産業、建築、流通業界等を包含した体制を構築するとともに、「木のまち静岡市」をアピールし、オクシズ材のブランド化を進め、国内外向け消費拡大に取り組む。

#### 語句説明

#### 森林認証制度

第三者機関により適切な森林経営が行われていると認証された森林または経営組織などから産出された木材などに、ラベルを貼付することで、消費者の選択的な購買を通じ、持続可能な森林経営を支援する取組。

#### 語句説明

#### 県営畑地帯総合整備事業

畑地帯における生産基盤及び集落環境の整備により、担い手の育成・強化とともに、畑作物の生産振興及び畑作経営の改善・安定を図る事業。

### アグリロード構想

**質問** 清水区庵原地域において県営畑地帯総合整備事業(畑総事業)により整備された5地区を結ぶ「アグリロード構想」の現在の取組状況と今後の考え方を問う。

**答弁** アグリロードの整備は農作業の効率化だけでなく、地域の活性化や災害時の迂回路に利用できるなど、地域にとって重要なものと認識している。

27年度末現在で全長16.8kmのうち未整備の約1.3kmの区間については、畑総事業により整備していくことを検討している。

アグリロードの整備により、富士山の絶景を望む周遊地域が観光や体験農園など交流の場として地域活性化につながる利用も期待されることから、事業の実現に向け取組を推進していく。